

42
破天荒

令和元年度版

創刊
第二十七号

2学期終了
入学期以来五回目の
学期終了を迎えた

令和三年度大学入試について

四十二回生にとつて、激動の二学期が終了しました。高大入試接続改革というところで、特に、英語民間試験に対応する九月に始まり、英語成績情報提供システムへの登録準備にも対応、いざ郵送準備が完了する頃に、英語民間試験の利用が見送られることになりましたね。

さらに、年末には、大学共通テストの目玉に挙げられていた国語・数学での記述式問題までもが導入見送りとなりました。ただ、英語については、現在のところ、記述・リスニングともに一〇〇点配点の計二〇〇点満点で行われることに對する議論は聞こえてきません。ということとは、リスニング重視の共通テストになり、大きな変換であると思います。

しかし、冷静に考えれば、今までの大学入試センター試験と大きく変わることはなく、大学入試改革と騒がれたおかげで、思考力を問われ、新たな出題パターンも経験することができました。新たなタイプの問題を経験するだけでなく、ただ知識で問題を解くことよりも、より正しく適切に問題を解くには、問題の流れや行間をしつかりと読み解く力を意識して準備できたことはそれらの問題で何点取ってきたか以上に、これから出会う未知の問題にどう向かい合うかという部分で役立ちます。

目指す方向がはっきりした以上、少しずつ着実に前進するのみです。二〇二〇・二〇二一年が、四十二回生にとつて更なる上昇氣流を得られるように、これからもっと自らの課題・行動に対して、深い思考を、多方面に素早く行える能力を高め、より適切な判断力を身につけていきましょう。

修学旅行について

年が明けて早々、四十二回生修学旅行です。まずは、不慮の事故や体調の変化でその機会を逃すことのないように、日々、体調管理に努め、健康でありましょう。一月七日には、まず各々の大荷物が修学旅行へと旅立ちます。よくあるのは、「荷物を開けるカギ忘れ」、「荷物だけ修学旅行」です。

想い出は、後悔とともにあるものでもなければ、人から話を聞かされて自分のものとするものでもない。自らが経験できるチャンスを、不注意や、日々の油断から逃すことのないようにして下さい。

保護者の皆様。荷物送り、早朝、夜遅くの送迎等、大きな負担をお掛けします。どうぞ、よろしく願います。

朝放課の風景

私は、生徒がいない朝の教室、放課後の教室が好きです。一担任のときは、自分のクラスの様子を気に掛けていましたが、ある時先輩の先生に、「自分のクラスだけでは自分の想いしか分からない。他の先生方が、どんな想いを持って生徒に向き合っているかを感じることや」というアドバイスをいただいて以来、朝、学年の廊下・トイレ・教室の窓を開ける時間を楽しむようになりました。

今、立場が変わって一年、この一年。教室で見える景色、教室から見える景色は、毎日違うもので大変面白い。各教室には各担任の先生のお癖があり、各担任の先生のようなメッセージに応じている生徒の使用
する机と椅子がある。時には乱れ、机が暴れていることもあります。それらの机や椅子がある空間から、
今日一日をどう過ごしてくれるかを期待している私がいちいち、昨日そこであった反省をしている私がいち
いち。それ以上に、担任の先生方の熱い想いを、どのようにすれば生徒に伝えることができるか。

そんな時間の中で42回生にどう向かい合うかを考えることができるこの空間を、これからも大切にしていきたいと思います。

一方、部活動中のグラウンドから放課後の教室を見上げると、期末考査10日前には全クラスで、下校時間ギリギリまで教室に明かりが灯っていました。午後6時を過ぎて教室を回ると、物音ひとつさせず集中を保って自学を進める者の姿があり、扉を開けるのも憚られる雰囲気醸し出しています。

まだ2年生、もうすぐ3年生。こんな風景も、42回生の今の姿の一つです。私達教師集団は、こんな42回生に何を伝え続け、どう共に今後闘っていくか。

実は、教室だけでなく、がんばり廊下にも、図書室にも、毎日貴重な時間を共有している42回生もいます。ただ、そこにいることに満足するわけではなく、自分の決めた課題をこなし、挑戦している姿から、今後も多くの期待をしたいと思います。

冬季休業中進路課題

4.2 回生 冬季休業中追路課題

組 番

私		が
名前		学年
		性別

に行く、目指すと決めたのは、

（まだ決まっていないは、いつまでもたっても決まらない）
読へ甲斐も含めて、喜劇、文藝にすること。逃げちゃったのだよ。

そのアドミッションポリシーを書きあげてみると

--

今、自分の何が生まれ、何を身につけ、他の受胎生に対して、どんな部分をアピールする力をつける必要があるかを重要事項としてみると、

--

これを受けて、もし、今目指している進路先への受験方法に、AO入試があるとして、そこに自分がこれだけ向いている、こんな部分を見てほしい、こんな部分を、そこで鍛えて社会に飛び立ちたい、というアピールした自己推薦文を、800字以内で書くこと。

空欄が割もあるようなものは書き直します。本気で、自分のその進路先での価値をアピールをする文意に仕上げて提出のこと。

この用紙は、1月8日(水)担任に提出すること。

4.2 回生 冬季休業中遠路課題[illegible]

(720字以上800字以下で書き切ること)

を(夏)きる冬で勝れ相手対し字以予想来ため具体にする自手になす

夏季休業中進路課題として、自分の進路目標を設定し、その理由を八〇〇字以内で表現する練習をしました。その際に、与えるところの生徒が多いことを実感しました。

冬季休業中進路課題として、左記に示した課題を与えます。現役で勝負するには、いつまでも「未定」のままでは残された時間が失われる一方です。無理やりにでも、目指す進路を一つ絞り、今回は相手をまず知るために、アドミッションポリシーを調べ、志望先に對しての自分のパワーポイントを理解する。そして、自分を八〇〇字以内で売り込む練習をしてもらいます。

来年は、いよいよ受験の年です。不安から早く決めたがることも予想されます。ただ、そこには本当の自分がない場合が多い。そのため、自分が希望した進路先でさえ、志望理由・進路先について、具体的に答えることができない生徒の事案を、高校三年生を相手にするたびに、たくさん目に見、耳にします。

自分が手にした進路のことは、自分の言葉で、自分の思いを相手に語れるよう、準備をしてもらいたい、させてもらいたいと思います。

神戸大学留学生交流事業 (本校インスパイア事業) 12月 6日(金)

主に、外国語大学志望者を中心に参加しました。考査前でありながら、良い準備をして、考査最終日に良い経験ができました。感想をいくつか掲載します。
(お詫び)左下の参加者の写真ですが、印刷ではどんな写真か分からず申し訳ありません。本校 HP 破天荒ではくっきり写っています。そちらをご覧ください。



神戸大学へ 2 人の留学生の方と高齢者問題について、お話をしに行きました。そして 2 人の留学生の方とお話を通して、国によって高齢化対策が違うということを知ることができました。緊張していたので上手く対話をするのができず、とても悔しいです。ですが、この日のために高齢者問題についての多くの記事を読み、理解を深め、英語で作文を作ったことで、少し成長することができました。そして、国際交流に参加したことで多くの課題を見つけることができました。見つかった課題は、語彙力や聞き取る力が乏しいということなどです。前からわかってはいたけれど、今日改めて早くこの状況を克服しなければいけないと痛感しました。悔いが残ることがないように今から努力していこうと決心しました。少し大変でしたが、貴重な経験をするのができて、とても良かったです。このような機会があれば参加してみたいです。
(2 組女子)



今回、神戸大学国際交流事業に参加させていただき、気付き、感じたことが二つある。

まず、一つ目は自分の英語を用いたコミュニケーションの稚拙さだ。私が対談させていただいたロシア人の方は、英語が第二言語であるにも関わらず、非常に流暢にお話になり、驚いた。私は、今回が外国人の方と話す初めての経験だったが、自分の稚拙さに気付かされた。読む・書くなどの技能だけではなく、話す・聞くといった実践的な英語力がこれからのグローバル社会にいかんにか大切かということを再確認できた。

次に、得たことは、外国人の方の考え方の素晴らしさだ。リベリア人の方と対談させていただいた際に、彼の母国への愛がひしひしと伝わってきた。誇り高い方で、話しているだけでこちらからパワーをもらえるようだった。

今回の体験を通して、たくさんの事を得ることができたが、一番感じたのは、もっと英語が話せるようになりたい、ということだった。自分とは全く違う考え方や文化の方との交流は新鮮で、もっと相手の事を知りたい、近付きたいという気持ちになった。こんな気持ちは初めてだった。英語を通して相手の方に触れ、言語の素晴らしさを実感した。本当に貴重な体験をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいだ。
(5 組女子)

今回、僕はこのような行事に参加できたことにとても感謝しています。学校など、日々の生活の中では海外の方と会話をする機会はなかなか無いので、今回神戸大学留学生の方々とコミュニケーションをとることができ本当に良かったです。

僕はマレーシアの方とドイツの方とお話をさせて頂きました。東京オリンピックに関するトピックを中心に、それぞれの国のスポーツに関する文化や歴史を知ることができました。

特に深く考えさせられたのが、マレーシアの方に対して、僕が「あなたの国でオリンピックが開かれたことはありますか？」と質問した時です。その女性は「No.」と答えました。その方は続けて、日本は経済的にもかなり裕福な国であるがマレーシアはそうではなく、オリンピックを開くほどの経済力がないと答えました。オリンピックの開催国に選ばれること、またその候補地に選ばれることは、実は当たり前のことでは無く、とても貴重であり難しいことなのだと分かりました。また、今回のように自分たちの国でオリンピックが開かれることは一生のうちに一度か二度だと思うのですごく特別なことだと感じています。

今回の交流会を通して英語を話すことの楽しさ、そして難しさ、さらにお互いの国の文化の違いや感じ方の違いなどあらゆることを学ぶことができました。その経験をこれから先の生活でも活かして自分自身の英語力をさらに向上させたいと思います。
(3 組男子)

この交流会はとても楽しく、参加して良かったです。初めは、神戸大学に惹かれて申し込んだので、文章を考えるのもしんどいなと思っていました。ですが、実際行って話して神戸大学を探索すると、とてもここに行きたいと思いました。バスが大学に着いた時から、急に緊張し始めてドキドキしましたが、交流が始まると、話して分からない所はもう一度分かりやすく説明してくれました。自分で聞き取れて意味がわかった時は、何だか嬉しかったです。40分がとても早く過ぎて、もっと話したいと思いました。

その後、図書館や食堂に行きました。図書館の自習室はびっくりするほど静かでした。私は普段、友達と自習しようと言ってもつい話してしまうので、すごいなと思いました。写真撮影をした所の景色は絶景で感動しました。夏休みに行った体験授業よりもっと深く大学を知ることができて良かったです。この交流会で神戸大学に行きたい気持ちがより強くなり、とても良い経験になりました。
(3 組女子)

私たちに、高齢化社会についてイギリスの方と台湾の方と、ディスカッションしました。

話を始める前は、もともとたくさん自分から話そうと思っていたのに、話を始めると、自分の未熟さ、無力さ、知識不足などたくさんの方に気づかれました。

また、間違えることを恐れ、もともと相手に伝えようとする努力が出来なかったことをとても後悔し、もともと多くの話の素材を用意しておくべきだったと感じました。

しかし、他国の状況など沢山のことを知ることができ、異文化交流和英語を話すことの楽しさ・難しさなど、沢山の気付きもありました。

今回の留学生との交流では、話したいのに話せない、伝えたいのに伝えられないなどという悔しさが一番の大きな学びであり、刺激になったと思います。この悔しさをバネに、更に英語の語彙やスピーキング、リスニングの精度を高めたいと、大きなやる気に繋がりました。また、間違えることを恐れることをやめて、何としてでも伝えようとする努力や勇気を持つことがこれからの成長に必要不可欠だと感じました。

このような機会はこれから多く無いと思いますが、異文化交流や外国人とのコミュニケーションをとるチャンスがあれば、積極的に参加したいと思います。

(二組女子)

普通なら校外研修に自分から進んで行くとは思いませんが、神戸大学に行つてみたかつたことと、海外の人と話せる機会もなかなか無いということでも申し込みました。

詳しく内容は知らずに申し込んで、初めての打ち合わせの時には、思つていたよりもハードでしたが、英語で五枚も質問を考へるなんてめつたにないことなので、良い経験になりました。

棒読みにならないように、顔が固まらないようにと思つてよみました。文の切り方をおかしかったりイントネーションがおかしかったりとなかなか上手いきませんでした。留学生の方の発音は、英語が母国語ではない方もきれいでした。母国語ではないのなら自分と同じ条件なのにあそこまですく話せるようになるということは、自分も勉強と練習をすれば近づけるのだと思いました。

これまでも英語は好きで、大学も外国語系の学部を希望していましたが、今回の交流会を終えてその希望がより明確になりました。

今回の交流会に参加したことで大学という物の雰囲気も分かり、英語への興味と好きな気持ちが強まりました。もつと英語を学びたいとも思えるようになったきっかけにもなりました。

この貴重な経験を大切にし、これからもつと英語へのやる気を高めていきたいと思ひます。

(二組女子)

国際交流事業で、フィリピンとリベリアの方と話しました。両国とも日本のように発達した部分が少ないようで、日本に比べてから生活が楽しいと言っていました。私はドイッが好きなので、ドイッの方からリベリアの方に交流相手が変わった時はさぐくショツクでしたが、発展途上国の話なども色々してくださったので、新たに地域格差にも興味を持つことができました。言っていることが理解出来たり出来なかつたりで悔しかつたり、言いたいことが上手く伝えられなかつたり何も出来ない自分に腹が立つたので、もつと一生懸命勉強したいと思います。将来の進路に関しても今回の神大で終ることが出来てすごく価値のある半日でした。正直四十分は全然足りなくて、話をもつとしたかかったです。こんな楽しいとは思っていません。すごく濃い時間だったせいで、すごく恋しい感じます。私も留学生の方のように、グローバルに活躍できる人材になりたいと思うし、自国について胸を張って語れるようになりました。

(三組女子)



自然科学コース徳島大学訪問
十二月十一日(水)



続いて、期末考査の翌週に、今回初めての試みになりましたが、国公立大学を目指す生徒には、徳島大学の情報を、是非持つておいて欲しい大学です。

＝医学部保健学科看護学専攻参加生徒＝
看護学についての講義を受けて、“看護師”というもののイメージが180度変わった。ただ漠然と、人の世話をするのが仕事だと思っていたが、正確な知識と、人の気持ちを汲み取る力が要求される繊細な仕事だと感じた。人を相手にする仕事であるため、辛いこともあるが、その分やりがいも大きいようだった。“あなたがいてくれて良かった”などという声が聞くことが一番の喜びだそうで、本当に素晴らしい仕事だと改めて感じた。自分の進路を検討する際に、視野に入れたと思う。

＝理工学部参加生徒＝
精密有機合成化学のお話しをお聞きし、僕が想像する何倍も、化学には奥深さがあることがわかりました。研究室を見学した感想は、「早く研究室で実験してみたい」です。そのために伏見先生から教わった、「とにかく本を読む」「語学は重要」を意識して、将来本当にしたいことができるように生活を送ろうと思います。

11月進研模試について

学年・教科の先生方からの熱いメッセージです。どう活かすかは皆さん次第です。まだまだ皆さんの伸びしろはある。自分の限界を勝手に決めず、先生方のアドバイスを素直な気持ちで取り込んでいきましょう。すべては自分を高めるためにあることを。

科目等	問題について	生徒に対して
国語	評論教材は内容、表現ともに読解に時間がかかり、小説教材は場面、心情を整理しながら読むことが要求される文章だった。古文、漢文は読みやすい教材で、基本的な文法・句形の知識を問う出題だった。選択問題では、問題文と各選択肢をきちんと比較・吟味すること、記述問題では、問題文の要素や根拠を検討・整理してまとめる力が問われた。	選択問題は勘に頼らず、問題文と各選択肢の内容や字句とを比較しながら答えること。記述問題は字数の多さにくじけず、筆者の批判点や主張・提案など、人物の心情、言動の意図などを整理しながら、とにかく文章にまとめること。古文は助動詞、助詞を意識して正確な読解、現代語訳を心がけること。漢文は『漢文学習必携』の句形を文単位で覚えること。
世界史	大問3を中心に、史料の読み取り問題が増加した。初めて見る史料に戸惑ったかもしれないが、問われている内容は授業内で扱ったものばかりである。焦らずに史料を読み取り、知っている部分を見つけ出そう。	とても良くできていた。小テスト・定期テスト・その復習と、しっかりやってきた成果が出たのではないかと思う。今後、覚える地域・年代が増えていくと、1学期にやった内容などは忘れてしまうので、定期的に見直すことも忘れずに。地図問題が少し弱いので、授業中に教科書で確認する癖をつけよう。
日本史	過去の出題形式と比べると、発表・レポート形式、対話文など、問題文の読む量が圧倒的に増えており、解答に時間がかかる。さらに初見の史料も増えているので苦戦した人も多いだろう。しかし、最終的に問われているレベルは過去問と同等の基本的なレベルである。	問題形式に振り回されずに、たずねられているのは教科書の内容なのだから、焦らずに毎日の授業を大切にしてほしい。また授業で教師からの問いかけに対して、まずは自分で考える習慣をつけよう。そういった積み重ねが、問題を解く力をつける。
地理	大問1の間5などが典型的だが、新型入試を意識した考え方を問う問題。こういった問題は地理的知識というよりは文章読解力が試されているので、しっかり時間をかけて解けばむしろ易しい。大問3の間6なども江戸時代の中山道を授業で触れることはないが、問題文をよく読むと「高低差がない」、「洪水被害を受けにくい」とあるのでそこから判断する。これも読解力の問題。	問題文が長くなる傾向にあるが、問われていることは基本的な地理の知識なので、普段の授業を資料集、地図帳を駆使してどれだけ理解できているかが大事。また問題を解くときは、全ての選択肢について、自分の判断ポイントに基づいた理由をつけて正誤の判断を下せるように努力しよう。
数学	比較的オーソドックスな問題であった。B3も、授業や月7補習で紹介した問題であった。B5に至っては、直前の中間考査で出題した問題の流れであったので、復習をしておいてくればという感想である。B8は、"どこから"見て、ベクトルの差で式を変形していけば、題意に沿った解答になるだろうか？をイメージできた者には、完璧にも辿り着ける問題であったと思う。あとは、文、理ともに、問題に対してどれだけ興味を持てるかという観点の問題である。数学に対する苦手意識の割には、模試中のB2の取り組み状況は、かなり良かったと感じている。	三角関数については、いつの時代も点数が出ない範疇だが、直前に考査で経験していたこともあり、得点につながっていた。ということは、処理能力はあるということである。絶対的な学習量、振り返り、毎回伝えているメッセージに対する実践がまだまだ十分ではないということを肝に銘じてほしいと思う。難しいことばかりしなくてもよい。基本の徹底をするというメッセージは他教科にも通じることであり、小さなことの積み重ねを繰り返して欲しい。
文系理科 (化基/生基)	大学入学共通テストでは、観察・実験に関する情報を整理・統合して課題を解決することが問題のねらいとなっています。このため今回は、すべての科目においてこれまでの出題傾向とは違い、長文を読み解き、思考する問題が出題されていました。このように出題傾向が変化していますが、問題の本質は変わらないため、特別な対応は必要ありません。授業中から、教師が教え伝える事柄において、その本質を理解する意識を持てば、十分に対応できます。	生基は、2年生では授業がないため、忘れている事柄が多く苦戦したのではないだろうか。国公立大学を目指すものにとっては、生基も立派な受験科目。冬季課題に生基も課す予定なので、しっかりと復習しておこう。化基は、次の模試からモルを使った本格的な問題が範囲となります。苦手意識を持たず、計算問題にも積極的に取り組もう。
理系理科 (物/化/生)	理科は、公式や科学用語の暗記の学問ではありません。自然現象などを公式や科学用語を使い、理解する学問です。そこに楽しみを感じることができれば、新テストでも良い結果を残すことができます。	理系なので、理科を他の教科より得意としている者が多いと思います。理科は、大学入学共通テストだけではなく、国公立2次試験・私立試験においても受験科目です。その理科が、得意科目だけではなく、勝負できる科目となるように、2年生のうちに基礎問題をマスターしておこう。具体的には、問題集の基本問題・例題の復習をやってみよう。(物理)11月の記述の結果を見ると、「力と運動」と「仕事とエネルギー」が弱点であることがわかります。どちらも、どの公式をどのように使うかがポイントになる分野なので、いろいろなタイプの問題を演習することが肝心です。特に、等加速度直線運動の公式、運動方程式、力学的エネルギーの公式は頻出なので、しっかりと演習をしてみてください。
英語	大問3のBは新傾向の出題であった。イラストの意味を汲み取り、ふさわしくない文章を選ぶ問題であった。その他は例年通り。表現力を問う問題において、関係代名詞のwhatを利用させる（ことを意図した）問いが出題されたが、実際にそれに気が付き、利用できている者が少なかった。また、リスニング、長文問題で上下の差が非常に大きく開いている。7月の模試に比べると、難易度は上がっているように思うかもしれないが、これも例年通り。	何を問われ、どんな力を図ろうとしているのか気づくことが大切である。気づきに必要なのは、日ごろから自分で考えて何かを求め追及しようとする姿勢。知識はあっても、活用できなければそれは力とは言えない。ただ何気なく授業を受け、適当に課題をこなしているようでは、そのような力は身につかない。本気になる者が、もっともっと増えてくることを願っています。また、英語力向上に必要なことは、毎日何かしらの場面で英語に触れること。長文（中文程度でもよい）を読む、単語に目を通す、洋楽を聴くなど。次年度はいよいよ最終学年。年間で300題の長文問題を解くことを目標にしてほしい。健闘を祈る。

	第一志望	第二志望	第三志望	第四志望
A判定	3	3	11	25
B判定	9	20	24	37
C判定	35	42	42	45
D判定	60	49	60	57
E判定	88	76	59	27
計	195	190	196	191
すべてE判定記入 になっている者		まで45人	まで37人	まで8人

数字がすべてではないですが、大切な数値は手にしていくべきです。今回の模試において、各生徒の第一から第四志望記入に対する判定状況です。

「第一志望は譲らない」どこかで聞いたフレーズですが、譲らないと言い切れるだけのこだわりを持った毎日を過ごしましょう。

まだ現実に向き合い切れない、すべてE判定の生徒は左記の通りです。「行く気がない」いやいや「来て欲しい」と言ってもらえていないことを直視して下さい。今の自分の立ち位置を、必ず情報として手にする模試にしないと、受験料には見合いません。

スポンサーの保護者の皆さんへ。見ているのが苦しくても、いま生徒に妥協をさせないで下さい。今の姿が、お子さんの本来の実力を発揮している姿とみえますか。

「ここがいい」のか。「ここがいい」のか。本当の意味で、高校卒業のタイミングは、大人の扉を開くときです。妥協から始まるのではなく、妥協し続ける生き方にならないように、「今この瞬間」に全力を注がせてやって欲しいと思います。